

令和 7 年 4 月 17 日

(※受付番号 )

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

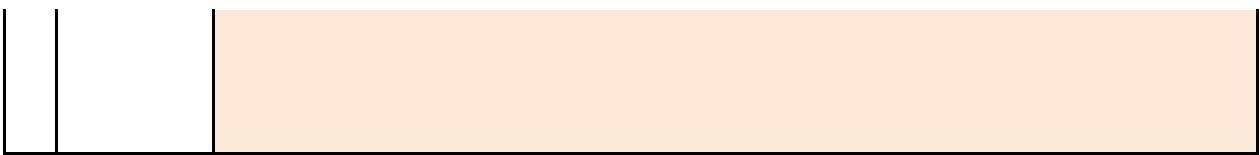
研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
751734

代表者	校園名 :	瓜破東小学校
	校園長名 :	新井 寿栄
	電話 :	6708-0108
	事務職員名 :	大石 詩織
申請者	校園名 :	瓜破東小学校
	職名・名前 :	校長 新井 寿栄
	電話 :	6708-0108

## 令和7年度「がんばる先生支援」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	<b>子どもも大人もチームうりひが ～かがやけ！みんなが主人公～</b>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てて記載してください。</p> <p>【本市がめざす基本理念：すべての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立すること。グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となること。】</p> <p>1. 特別活動は「なることによって学ぶ」ことを方法原理としているため、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において身に着けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより、資質・能力の向上につなげるのかということを意識した指導方法の研究を進める。</p> <p>2. 特別活動は各教科等の学びの基盤となるため、教育課程全体における特別活動の役割や機能を明らかにしていく。</p> <p>3. 特別活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校の長年の課題の一つに、児童の自尊感情の低さが挙げられる。その課題解決に様々な取り組みを行ってきたが、それは個々の教員の力量に任されている。また、学級活動をはじめとした話合い活動においては、教師主導で進められている現状がある。これは、コロナ禍により他校の取り組みを学ぶ機会も少なく、学校行事をはじめとする児童会活動も教師主導で児童の思いや願いが反映されていないからである。これらは、経験年数が浅い教員が大多数を占める本校だけでなく、大阪市全体の課題ではないかと思われる。そのため先進校の参観を通して、児童発信で学校・学級をよくしようとする子どもを育てるためには、教員自身がファシリテーターに徹することが必要不可欠だと実感できるようにしたい。そして、この力を全ての教科・領域に生かし、個別と協働の学びにもつなげていきたいと考えた。そこで研究テーマを「子どもも大人もチームうりひが～かがやけみんなが主人公！～」とし、全校児童を全教職員で支援・指導しようと「特別活動」の研究に取り組むこととした。</p> <p>昨今、教育現場では授業時数や学校行事の編成や工夫・改善が求められている。そこで、研究の進め方として、1年目は教員が「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の4つのチームに分かれ、それぞれのチームが研究した内容を全体で交流、共有することで「特別活動」について知ることから始める。</p> <p>《研究の視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学級活動」・・・話合い活動を通して、学級や学校における集団作りへの参画を進める。</li> <li>「児童会活動」・・・全児童が主体的に活動に参加できるものを高学年児童を主とした児童会が運営する。</li> <li>「クラブ活動」・・・異年齢の児童が協力し、創意工夫を生かしながら興味・関心を追求する。</li> <li>「学校行事」・・・学校行事の精選を図りながら児童が感動体験できる学校行事の在り方を創造する。</li> </ul> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度、4つのチームごとに研究を進める中で、「学級活動における話合い活動」の充実が大切だと実感した。また、児童の振り返りカード等に「学級会の話合い活動で学んだことを委員会やクラブ活動で生かしていきたい。」という意見が多くみられた。そこで研究2年目は、全学級で「学級活動」の研究授業に取り組むこととした。また、委員会活動・クラブ活動においても「個人のノート」を持ち、活動実践のポートフォリオ化に取り組むこととした。</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			



		<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p><b>4月【研究企画会】</b>研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。  <b>【研究推進委員会①】</b>・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化を図る。        ・大阪市小学校教育研究会「学校行事部、学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部」の昨年度の研究紀要を参考にして、本校の4チームの年間計画を立案する。        ・児童アンケート、教員アンケートを作成する。  <b>【研究全体会・全体研修会①】</b>・4つのチームの年間計画の共通理解を図る。        ・うりひが学級活動指導計画を立てる。        ・学級目標、係活動の決め方について共通理解を図る。</p> <p><b>5月【研究推進委員会②】</b>児童アンケート、教員アンケートの実施・分析  <b>【授業研究会①】</b>「6年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)  <b>【研究全体会・全体研修会②】</b>「学級活動について」講師 中野小学校 牧野美奈子 校長</p> <p><b>6月【授業研究会②】</b>「5年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)</p> <p><b>7月【授業研究会③】</b>「5年2組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)  <b>【全体研修会③】</b>1学期の児童の特別活動における児童の変容を分析</p> <p><b>8月【全体研修会④】</b>「全国特別活動研究協議大会 東京大会」オンライン参加 伝達講習会</p> <p><b>9月【授業研究会④】</b>「4年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)</p> <p><b>10月【授業研究会⑤】</b>「4年2組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)  <b>【研究推進委員会③】</b>児童アンケート・教員アンケートの実施・分析</p> <p><b>11月【授業研究会⑥】</b>「3年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)</p> <p><b>12月【授業研究会⑦】</b>「2年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)  <b>【全体研修会⑤】</b>2学期の児童の特別活動における児童の変容を分析</p> <p><b>1月【授業研究会⑧】</b>「1年1組学級活動」(指導案検討会・研究討議会)  <b>【研究推進委員会④】</b>児童アンケートの実施・分析</p> <p><b>2月【研究推進委員会⑤】</b>・大阪市小学校学力経年調査の結果分析        ・教員アンケートの実施・分析        ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p><b>3月【研究推進委員会⑥】</b>研究のまとめ作成  <b>【研究全体会・全体研修会⑥】</b>次年度へ向けて、本年度の成果と課題の共通理解</p> <p><b>4ti-muno</b>        全国特別活動研究協議会東京大会にオンライン（4つの分科会：学校行事に関するもの・学級活動に関するもの・児童会活動に関するもの・クラブ活動に関するもの）で参加し、得た知見をもとに研究を深め、日々の実践に生かすとともに、全市発表で発表する。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。 理由 経年にわたって、成果を検証するため。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および、「教員の資質や指導力」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いざれかに☑を入れてください）</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上        様々な集団活動や体験活動の場を工夫することにより、児童がよりよい人間関係を構築し、豊かな人間性や社会性を育むことができる。</p> <p>《検証方法》        学校行事、児童会活動の事前・事後において、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり返りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり返りカード」と検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上        児童の実態や発達段階に応じた資料（議題、話合いの活動の進め方、活動内容等）を共有し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》        児童の「活動のふり返り」で話合い活動（話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、ひろめたりすることができます）について肯定的な回答を70%以上にする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>集団活動や体験活動において「がんばりカード」や「ふり返りカード」「キャリアパスポート」を活用して、個のめあて・集団のめあてをもって活動し、自己評価や相互評価を行うことにより、主体的に学校生活に生かす態度を育てることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>学校行事の取り組みにおいて、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり返りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり返りカード」を検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>話し合い活動における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子どもたちが課題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>児童の自己評価、相互評価で肯定的に回答する割合を70%以上にする。（進んで意見を発表できたか、友達の意見を聞いてかんがえることができたか等）</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="441 967 1383 1034"> <tr> <td>日程</td><td>令和 7 年 12 月 未定 日</td><td>場所</td><td>大阪市立瓜破東小学校</td></tr> </table> <p>◆【必須】 waku<sup>x2</sup>.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="441 1109 965 1176"> <tr> <td>日程</td><td>令和 8 年 2 月 27 日</td></tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 7 年 12 月 未定 日	場所	大阪市立瓜破東小学校	日程	令和 8 年 2 月 27 日
日程	令和 7 年 12 月 未定 日	場所	大阪市立瓜破東小学校					
日程	令和 8 年 2 月 27 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目）</p> <p>本校は、1・2・5年生が単学級、3・4・6年生が2学級の全校児童228名の小規模校である。指導者は経験5年目未満の講師を含め、10年未満の教員が過半数を占めている。学力向上が喫緊の課題であるが、それには子どもも指導者も「学校が楽しい」と思えることが必要不可欠であると考える。しかし、学級経営を中心とした学校生活の基盤となる部分が、個々の指導者の思いや経験値、力量だけで行われていることは子どもにとって不利益が生じると考える。そこで、特別活動全体の研究を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導力向上に努めることで、児童の自尊感情と高めるとともに本校の「めざす子ども像」がより具現化されると期待する。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>本校では、1年生から専科制を探り入れ、児童にとって魅力ある授業づくりに努めている。しかしコロナを機に、保護者・児童ともに学校を休むことのハードルが非常に低くなっている現状があり、喫緊の課題である学力向上に向けての取り組みがなかなか進まない現状がある。また、他者と関わることで生じるトラブルに対しての対処の仕方が身についていない児童も多い。そこで【特別活動】の研究を進めることで、自分の思いだけでなく他者の思いに心を寄せ、学校という小さな社会で誰もが安心して生活できる力を児童が身につけることができると期待している。1年目の研究を終え、教員や保護者・地域の方から「確実に子どもが育っている。」という声が挙がっている。継続研究することで、さらなる子どもの成長により良い影響を与えると信じている。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						